

恵下埋立地（仮称）整備事業に係る準備書への意見及び質問等について

第2回審査会での意見及び質問事項

意見及び質問の概要		事業者からの回答	該当部分
第2章 事業の目的及び事業の内容等			
埋立地の事後管理	埋立期限(30年間)終了後の管理はどのようにするのか。 遠い将来見返せるような設計図書等の資料保存を考えて頂きたい。 (棚橋委員) 紙ベースでの保存をお願いする。 (矢野委員)	浸出水の水質が基準を満たすまで管理を続けることになります。 データは永久的な保存で対応したいと考えています。	
搬入道路	搬入経路の幅員、路盤の状態や道路勾配について説明して頂きたい。(高井委員)	広島湯来線については、片側車線3mの2車線道路で、道路の有効では6m、路側帯などを入れると7～8mの道路幅員になります。久地伏谷線、広島湯来線、国道433号線の搬入経路となる道路は全て、そのような道路に整備される計画になっています。 新しく作る道路の道路勾配は、基準では12%までよいが、寒冷地仕様の最低基準の8%としています。	準備書 p2-2-13
	きつい道路勾配による沿道の環境悪化については、どのように考えているのか。(高井委員)	ごみの搬入で増える交通量は1日平均100台、ピークで150台で、それに伴って、大気は微量、音が1デシベル程度の変化であり、それほど大きい影響はないと考えています。ただし、坂道になるので、運転は慎重にする必要があると考えています。	

意見及び質問の概要		事業者からの回答	該当部分
景観	図13-2の将来図はいつの時点のものか。将来的な先を見越してどのようにされるものなのか。 将来の構想をいつ頃から検討されるものなのか。(吉田委員)	この将来の絵は、供用中の予定というイメージだと理解して頂きたい。 跡地利用を検討するタイミングは、完了後すぐに着手できるよう、完了するまでの間に地元と協議しながら検討します。状況に応じて跡地利用の計画は変わります。林間の中で一番ふさわしい公園とかキャンプ場のようなものを想定していますが、まだ決まっていません。	要約書 p97
	市民一人一人が責任を負うことを認識して頂くためにも、市民への啓発として、埋立地の上の方から見ると日々の生活に伴うゴミがあるといった悪い景観も評価して頂きたい。(吉田委員)		
事故時の責任の検証	万が一の事故があった時に責任が発生しないかの検証をしていく必要があると思う。 政令等の抽象的な表現等の基準について、ベストな解釈をクリアしているかどうかの検討がされているのか。(坂本委員)	主な関係法令は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」「一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令」等であり、その基準があいまいな所の解釈ということで整理されたものが、「廃棄物最終処分場整備の計画・設計・管理要領」です。新しい基準や法令を確認しながら設計しています。	準備書 p5-1-1
搬入廃棄物	リスクの高い廃棄物(焼却灰)と一緒に埋め立てるのは、長期間に渡り地下水の汚染を引き起こすことになるが、対策はあるのか。(小阪委員)	焼却灰は、基本的には家庭、事業所とも可燃ごみ、ビニールごみの焼却灰であり、工場・事業場の産業廃棄物を焼却したものではありません。また、キレート処理をして安定化しますので、水質上に大きく影響するものは出てこないと考えています。	
遮水構造	二重の遮水シートを同じ材料にすると同じように劣化するため、もう一つは別の材料でやっておけばより安全になるという考え方をもう少し追及してみるべきではないか。 土質系材料を組み合わせる方法が、ほんとうにできないかということを追及してみても如何か。(土田委員)	平場で緩やかな傾斜の谷地形であれば、土質的な問題を除けば、施工の可能性は十分あると思いますが、事業地斜面に施工するとなるとかなり厳しいものになります。 全体的に二重遮水シートの代わりに遮水工を全部ベントナイトにするのは、施工面や造成面からも非常に困難と整理しています。	準備書 p2-2-15

意見及び質問の概要		事業者からの回答	該当部分
遮水構造	シートの選択において、是非工夫して頂きたい。検討をお願いします。(堀越会長)	改良土の他にアスファルトコンクリートや複合遮水工は何種類かありますが、信用度ということであれば、二重遮水シートの方が今の時点では実績的にも信用度があると考えます。	準備書 p2-2-15
	「浸出水の流出遮断機能」の遮断とは、水を一滴も通さないという意味であり、管理型処分場の場合、適当ではないと思う。難透水性というものも透水性がゼロではなく、これくらい小さければ水環境に影響を与えない程度に小さいということの表現が使われているものである。(土田委員)	土質系は透水係数が限りなくゼロになっているが、完全に遮断している訳ではなく、水が流れにくい状態で下に浸透しないということなので、評価書の段階で表現を整理します。	
	遮水シートに沿った水の動きにより植物の根が走ったり、シートの炭素源を利用する植物が生えれば、簡単に遮水シートを破壊する能力があるのではいか。(河野副会長)	現在の玖谷埋立地でも切土部分に植物が生えてくるのを抑制する対策を行っています。盛土部分は、抑制できるような盛土材など対策が必要だと思いますので、研究させていただきます。特に竹については、十分な除根が必要だと思います。	
	遮水シートが破損した場合の堅穴掘削による補修とはどのようなものか。(堀越会長)	堅穴掘削というのは、地下を工事するときに、まず縦方向に山留めとして矢板などで閉め切ったりして、土留めをしながら下に掘り下げていくという形です。	
	遮水シートの破損をチェックするセンサーは線状のものなのか。 センサーの断線が起きた場合は、どのようなになるのか。(堀越会長)	センサーの検知電極は、2重遮水シートの間に何10メートル間隔のメッシュになった電極の線が入ったシートを全体に張っていきます。 格子状の中の一部がもし壊れたとしても他の所で補完しながら破れたところが確認できます。基本的には、もしセンサーが壊れて、一部ダメになった場合、そこを掘り返してシートを直すほうが遮水シートが破れた形になるので、直すのではなく、電極に電気を流し、状態を確認しながら、他の部分で補完しながらの対応になると思います。	準備書 p2-2-17

意見及び質問の概要		事業者からの回答	該当部分
遮水構造	遮水シートの性能を上げるための可塑剤等の添加物が分解に伴って問題となる場合もあるのではないか。安全なものを使ってほしい。(矢野委員)	もう一度、成分を確認しながら行いたい。 今後、どういう仕様で条件を付けられるのか考えていきたい。	
検出限界	どういう測定法に沿ってその時にどれだけの検出限界だったということを示すほうが、分析技術が向上した時に元々の状況を知るためのよいのではないか。 (河野副会長)	既存資料から引用したもの以外は、定量下限値は標記しています。	準備書 p7-7-3
水質	市民意見の融雪剤の塩化カリウムや塩化カルシウムの心配は如何か。 また、新しい道路は雪が早く溶けるよう谷の北側に付けてください。 (矢野委員)	できるだけ使用量を控えるとかいうことで対応をしたいと思っています。また、舗装面を少し凍結に強い舗装材を使うことで、少しでも散布量を減らせるよう考えたい。	